

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ④⑥
『窓ぎわのトットちゃん』

先日、映画館で『窓ぎわのトットちゃん』を見てきました。この本は私が教師となった昭和56年に出版され、以来ベストセラーとして読み続けられている物語です。作者は女優の黒柳徹子さん。昭和20年前後の戦前・戦後の小学校（国民学校）を描いた作品です。当時、黒柳さんが通った東京自由が丘の「トモエ学園」というユニークな小学校が舞台となっています。リトミックや電車の教室、小林校長先生の温かな人間性が描かれたノンフィクションの素敵な物語です。トットちゃんはチンドン屋さんを学校に呼び込むような落ち着かない木登りの好きな小学生です。トイレに財布を落とした時、慌ててさがすトットちゃんに「片付けておけよ」と一言言うだけの小林校長先生。決して結論を急がない、プロセスを大切にしたい真の教育のあり方が書かれています。今年、この本の続編も刊行され、トットちゃんが東京大空襲、青森への疎開、女学校を経てNHKに入社するまでが作品となりました。書籍も映画も一度ご覧になって下さい。

ラジオ放送で「仕事にしても趣味にしても、小学生時代に夢中になっていたこと、得意だったことを思い出し、取り組むとわりあい上手くいくよ」というコメントを聴きました。「なるほど」と思いました。自分が小学生の時、苦手だったことは工作と書道とリコーダー。手先が不器用で本当に上手くできませんでした。担任の先生に褒められたことは作文でした。作文だけは小・中学校時代大きな賞を何回もいただきました。少しだけ自信となり、学習のモチベーションとなりました。好きだったことは相撲です。祖母と毎場所相撲を見ていたので、多くの力士の名前を憶えています。教師となっても論文やレポートを書いたり、中学校の相撲競技の役員を務めたりしたのもこれらのことが下地となっているのかもしれない。皆さんもどうか好きな事に我を忘れて取り組んで下さい。私は今年こそ苦手な書道の稽古も始めたいと思っています。「自分の好きな事、得意な事に夢中となる」のはトットちゃんの話に通じることかもしれません。

令和6年の正月を迎えました。今年も少しだけ無理をして、少しだけ見通しをもち、皆さんの意見を聴きながら、あわてず焦らず一步一步「勇往邁進」していきたいと思えます。どうかよろしく申し上げます。

タブレット打つ指先に蜜柑の香

令和6年1月5日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視